

京都の福祉 *Welfare of the Kyoto*

551

2016.1 January

●京都府社会福祉協議会会長挨拶
「つながりをとおして、だれもが尊厳をもって生きることが出来る京都」の実現をめざして

●京都の福祉職場で働きたいあなたを応援する就職支援センター
FUKUJOBきょうと
●夢中！熱中！ふくしびと



平成28年の「笑顔カレンダー」

もえくす

▼新年おめでとうございます
昨年10月、欧米など主要先進国34カ国が加盟する経済協力開発機構(OECD)が、国民生活の満足度を測る「より良い暮らし指標」報告書の最新版を公表した▼加盟国中の日本の特徴は、平均寿命が最も長いのに、自身の健康状態が良いと考える人が極端に少ない。犯罪が極めて少ない安全な社会だが、貧困率が高く不安定な状態であるなど相反する指標が顕著だ▼「子どもの幸福度」も、乳児死亡率は低いが青少年の自殺率は高い。識字率や計算能力、高校修了率はトップだが、社会経済環境による学習環境の悪い学生の割合も高いそうだ▼なぜ、日本はこのように矛盾するベクトルが併存するのだろうか。戦後日本は社会システムやハードの整備に力を注いできた。ある種の「国家による福祉」といって良い。しかし近年は、企業活動がグローバル化し、規制緩和、公的部門への市場原理が導入されるなか、国民生活に格差が広がっている。租税調達能力と租税による所得再分配機能の双方が低下している現れでもある▼さて、「人としての尊厳を大切に社会は、言うは易し行うは難しで、国や自治体の目指す姿や役割を徹底的に国民の視点から再構成する必要があるだろう。住民の手で暮らしや政治のあり方を決める住民自治の徹底こそが打開策となり得るし、地域福祉の推進はまさに住民自治の実践である▼私たち社会福祉に携わる関係者は、「未来に希望を託せる社会は住民が主人公の社会だ」と真に確信を持ち合わせることができているだろうか。そのあり様を語り合うことからスタートしたい。(T.S)



「つながりをとおして、だれもが尊厳をもって 生きることがができる京都」の実現をめざして

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 会長 位高 光司

新年あけましておめでとう
ございます。

昨年はずなかりをおし
て、だれもが尊厳をもって生
きる事ができる京都」の実
現をめざし、京都府内の各市
町村社会福祉協議会や民生委
員・児童委員の皆様、社会福祉
施設や関係団体の皆様ととも
に、地域の絆づくりや福祉人
材の確保、育成を支援する事
業などを進めてまいりました。

こうした活動を展開できま
すのは、京都府をはじめ関係各
位の温かい御理解と御支援の
賜物と深く感謝申し上げます。
さて、年明け早々にも国会

で継続審議となっている社会
福祉法の改正案の審議が再開
されます。法改正を待つまで
もなく、社会福祉法人として
の経営の透明化、情報開示等
は実施していくべきものであ
り、国民から負託された社会
福祉・社会保障の増進に向け
て今後とも努力することが求
められます。

2025年には団塊の世代
が後期高齢者となり、介護・福
祉人材の確保や社会保障制度
の整備が一層求められること
となります。そのような中で、
今日、住民どうしのつながり
の希薄化、孤立死や生活困窮
者の増加など、地域社会にお
いて多様な生活課題が複雑化、

深刻化しております。また、
介護離職の問題や高齢者、障
害者、児童のどの分野におい
ても虐待事案が発生するなど、
福祉課題を抱える方々や福祉
現場で働く従事者への支援の
充実が何よりも重要になって
おります。

京都府内でも、昨年、介護・
福祉人材の確保・定着を支援
する「京都介護・福祉人材総合
支援センター」を開設したと
ころですが、引き続き事業の
充実に取り組み所存でありま
す。また、生活困窮や孤立状
態にある方々の自立を支援す
るための相談やその後の生活
を支えることのできる地域づ

くりなどの取り組みが進んで
おります。

こうした取り組みを支援す
るため、京都府社会福祉協
議会では、幅広い地域福祉の
ネットワークである「絆ネッ
ト」の構築や社会福祉法人が
連携して制度の狭間の課題に
対応する「京都地域福祉創生
事業」、法人後見の推進などの
取り組みを行ってまいります。

結びに、新しい年も昨非同
様、私も京都府社会福祉協
議会の活動に御理解と御協力
を賜りますようお願い申し上
げますとともに、皆様の御健
勝と御多幸を心からお祈りい
たします。



「文化創生」から新たな京都を

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけまして
おめでとうございます。

昨年7月には、長年の悲願
であった京都の南北軸、京都
縦貫自動車道が34年という長
い歳月をかけてようやく全線
開通しました。京都全体に大
きな流れを創るこの大事業の
完成に尽力された全ての方々
に、心からお礼を申し上げます。

昨年を振り返って

この開通を期し北部7市町
においては、4カ月にわたり
「海の京都博」を開催し盛り上
げていただきましたことに対
しまして感謝申し上げます。
また、昨年は琳派400年
記念事業さらに国宝「東寺百
合文書」と第二次世界大戦後
のシベリア抑留者等の引き揚
げ記録「舞鶴への生還」の世界
記憶遺産登録。そして「日本茶
800年の歴史散歩」京都・
山城」の日本遺産への認定な
ど北から南まで京都の持つ豊
かな文化を示すことが出来た
一年でした。

しかし、地方消滅とまで言
われる少子・高齢化問題や、
雇用情勢が好転すると顕著に
なる人材不足。円安により輸
出産業が伸びる一方、内需型
中小企業は原材料高に苦しみ、
伝統産業も広幅織物は伸びた
のに対し着物の需要はまたま
だ低迷、さらにはT・P・P問題
で農林水産業には懸念が広が
るなど、さまざまな課題が改

めて浮き彫りになった年でも
ありました。

京都流の地域創生へ

こうした課題の克服と同時
に京都の力を最大限に発揮
して、京都の将来を切り拓
くことができるよう、昨年10
月、「京都流 地域創生」『文
化創生』から新たな生活を「
をテーマに「京都府地域創生
戦略」を策定しました。

こうした問題の背景には東
京一極集中や、大都市や大企
業志向に代表されるような価
値観の固定化が進む中での格
差の広がりがあり、社会が柔
軟性を失いつつあるのではと
いう危惧があります。今、京
都から、少子化問題・子供の
貧困対策、若者の就労支援な
どでも一度「人づくり文化」
を確立させ、マネーゲームに
はない真の豊かさを取り戻す
ために産学公の力を結集し、
技術力に裏打ちされたものづ
くりの素晴らしさを広め、京
都の豊かな農林水産資源を六
次産業へと発展させる時代を
踏まえた「産業文化」を育成し、
京都ならではの伝統・文化に
恵まれた大都市と豊かな自然
をもつ田園の両方の魅力を享
受できる、ある面賑やかな「京
都らし文化」を創生させなけ
ればなりません。そしてこう
した文化を統合させ、京都が
多様性に富み、躍動的な地域
として魅力を世界に発信でき
る「地域づくり文化」へと昇華

させていくことが必要だと考
えています。

これからの数年は京都の将
来を左右する大事な時です。
地域創生は他人事ではなくま
さに私たちの未来です。

京都には、どこにも負けな
い歴史と伝統があります。さ
らには世界水準の大学・研究
機関、高い技術力を持った中
小企業の集積、豊かな自然環
境など魅力的な資源や資産を
たっぷり有しています。

「もつひとつ」の京都の発信

昨年は「海の京都」を見てい
ただきました。そして今年
「森の京都」です。京都府の74
・3%は森林であり、森は私た
ちの水を清め、空気をつくり、
災害を防ぎ、さらには貴重な
木材資源を提供してくれます。
何にも代えがたい宝である京
都の森の素晴らしさを皆さま
とともに分かち合い、次世代
に引き継ぐため、「全国育樹
祭」を中心に、森の恵みを府民
の皆さまに体感していただく
「森の京都博」や丹波高原の国
定公園の新規指定など、林業
の振興と自然保護と森の文化
が一体となった「森の京都ス
タイル」の確立を目指した地
域づくりを進めることとして
います。

こうした素晴らしい森林を
未来に受け継いでいくための
財源として、「豊かな森を育て
る府民税」の導入を昨年、府
議会でご議決いただきました。

府民の皆さまに、この税に対
するご理解をいただきたいと
思います。

京都の未来を拓く人をつく
り、地域経済を活性化させて仕
事をつくり、京都への人の流れ
をつくる。さらには新しい交流
の中で持続可能で魅力と活力
のある地域をつくり、そして京
都から日本を変える新たな文
化創生。今多くの観光客が京
都を目指しています。単に名所
旧跡があるからだけではなく、
京都の持つおもてなしの心、人
を癒す環境、ほんまもんが持つ
力が人々を引きつけているの
だと思えます。

今年、リオデジャネイロで
の夏のオリンピック・パラリ
ンピックが終わればいよいよよ
東京オリンピック・パラリン
ピックへの道のりが始まりま
す。その皮切りが、秋に京都
で行われる国主催のスポーツ
と文化の国際フォーラムです。
京都の「文化創生」はいよいよ
本番を迎えます。府民の皆さ
まのご協力を心からお願ひし、
この一年の、皆さまのご健勝
とご多幸を心からお祈り申し
上げ、新年のごあいさつとい
たします。

詳しい補償内容はこちらまで
福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **S.R.M.** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-822-8613**
福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

福祉事業を始めるなら
賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

平成27年度 人権擁護啓発ポスターコンクール
**京都府社会福祉協議会会長賞が
決定しました!**

人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター(絵画)の制作を通じて基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。今年度は小・中・高の中から198校5,232件の応募がありました。その中から京都府社会福祉協議会会長賞として、綾部市立吉美小学校3年「由良 愛菜(ゆら あいな)」さんの作品が選ばれました。作品は京都府ホームページでご覧になることができます。



FUKUJOB きょうと

介護・福祉人材総合支援センター

京都介護・福祉人材総合支援センター

場所：京都市中京区竹屋町烏丸東入ル清水町375

開設時間：9:00～17:00（月～金）

※土日祝日、年末年始（12/29～1/3）は休み

電話：075-252-0294

2025年問題と国の施策

国の推計では、団塊の世代が75歳を迎える2025年には全国で介護・福祉人材が約38万人不足すると考えられています。国では、総合的な人材確保の方策として、①多様な人材の参加促進のため介護の魅力の情報発信によるイメージアップや親の理解促進、中高年齢者の参画、福祉人材センターの機能強化。②キャリアパス構築のため資格取得の支援や離職した介護福祉士の届出制度の創設。③定着促進のため認証・評価の実施や事業所内保育所の運営支援。④資質の向上のため介護福祉士の資格取得方法の見直しや未経験者に対する入門的な研修の構築など、人材の確保に向け様々な施策の実施及び検討がされています。

きょうと福祉人材育成認証制度

京都府は、急速に拡大・成長する福祉業界の人材確保を重点課題と捉え、「給与や定着率が悪い」「キャリアパスが見えない」といった理由で、学生を始めとした若者がなかなか福祉の業界を選ばない現状を改善し、福祉の業

護・福祉分野への求職希望者の相談や就労支援、就職後の研修などをワンストップで行う施設として、平成27年10月、ハートピア京都の1階及び地下1階にオープンしました。

有資格者に加え、未経験者や仕事を離れていた女性や中高年齢層への就労支援にも力を入れ、福祉職場の人手不足の解消を目指します。センターの具体的な役割として、1階には新たにコンシェルジュ2名を配置し、福祉職場への就職を希望する全ての府民が利用できる窓口として、①就職希望者には就労支援機関、研修希望者には研修実施機関を紹介、②府内の団体・機関が行う福祉イベント、セミナーの情報提供などきめ細かなサービス提供を行います。

また、地下1階はこれまでの福祉人材・研修センターを利用者目線でリニューアルしました。①わかりにくかった入口を会館出入口側に設置し、室内装飾を明るく入りやすいものに、②地下鉄からの案内や事務所が2フロアに分かれているため誘導サインを見直すなどの変更を行いました。

更なるサービス向上

国の施策強化や、福祉人材確保をめぐる環境が厳しい中、新たな人員配置や事務所のリニューアルを受けて、こ

界が若者にとって安心して働ける業界であることを示すために、平成25年に「きょうと福祉人材育成認証制度」を創設しました。設立3年目を迎え、制度に参加している宣言事業所が400件超、府の定める基準を満たす認証事業所は161件となり、業界の協力を得ながら更なる推進を行っています。

現在の就職環境

平成27年10月の有効求人倍率は全国で1.24倍、京都府も同率となっています。その一方で福祉職場の有効求人倍率は2.83倍で、求人3人に対して求職者が1人しかこないといった「売り手市場」になっており、人材確保が一層難しい状況となっています。

こうした中、これまで本会が運営してきた京都府福祉人材・研修センターが取り組む人材の確保・育成・定着を国、京都府の施策や就職環境を踏まえて、さらに強化をしていくこととなりました。

京都介護・福祉人材総合支援センターの設置

京都介護・福祉人材総合支援センター（愛称：FUKUJOBきょうと）は、京都府と本会が共同で運営し、介

これらの資源を活かした更なるサービスの向上が求められています。

新たな人材の確保先として、中高年齢層や未就職女性の開拓には、これまでの概念を取り払い、企業・公務員のOBといった人達に対する働きかけを行っているほか、親子対象のイベントでの広報を行い未就職の女性に認知を広めるなど、まずは開設した施設・機能を知らせてもらうことで認知度を高めたいと思います。

研修事業は、これまでのキャリアパ



福祉関係団体の連携と人材確保

ス研修や高齢・障害等の専門研修を実施するとともに、新規求職者向けの福祉職場を知ってもらう入門セミナー、法人を対象とした未就労者の就労拡大に向けた取組みを検討するなど、新たな人材が育成・定着できる環境を目指して事業計画づくりを進めています。

現在、中高年齢層や未就職の女性の就職相談件数が増えており、新たな就職先の確保や定着支援が課題となっています。今後、法人側の努力が不可欠ですし、多くの人が働ける環境をつくるためには国・京都府・団体が力を合わせ、人材不足の解消を目指して、連携をしていく必要があります。

新たなセンター「FUKUJOBきょうと」が設置され、3か月程が過ぎましたが、まだまだ周知不足です。今後とも、広報の強化に一層努めるとともに、読者の皆様や社会福祉法人、市町村社会福祉協議会と連携した取り組みをすすめてまいりますので、一層の協力と御支援をお願いいたします。



夢中! 熱中!

だから続けたい この仕事

ふくしびと

福祉の現場で働く人たちの熱い想いメッセージを伝えるコーナーです。京都市内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいや「生」の声をお届けします。



幼少期の頃、祖父母と同居していたので、自然と高齢者福祉の分野に興味を持ち、大学で社会福祉を学びました。福祉事業も手掛けている民間企業に就職をしましたが、希望の福祉事業への配属は叶いませんでした。「やはり福祉の仕事がしたいなあ」と思っている時に、地元宇治市の社会福祉協議会の募集があり転職しました。入社してからは、小地域福祉

つひなぎと

絆ネットが立ちあがってすぐの頃の話です。社協に第一報があったのはAさんとつながりのある団体の方からでした。

「活動に参加されていたAさんが来られなくなった。久しく会っていない」とAさんは70代で一人暮らし。団体の方と一緒に自宅へ訪問しましたが、Aさんはなかなか出てきてくれませんでした。しばらくして戸が開き、出てこられたAさんは体調が悪そう、部屋も荒れている様子でした。団体の会員証の写真のAさんはとてもふっくらされているのですが、お会いした時のずいぶんお痩せになった姿の変わりように驚いたくらいです。Aさんはこちらからの声掛けにも「ほっといてくれ」としか答えず、その日の訪問は終わりました。

つながりを広く、深く

その後、地域包括支援センターの看護師と何度も訪問し、様子を見ていましたが、夏の暑い時期でもあり、そのままにはしておけないということで、本人を説得し救急車を呼び、入院になりました。

入院中も訪問を重ねるうちに、ぼつりぼつりとお話されるようになったAさん。その言葉の中からAさんがこれまで生きてきた姿を垣間見ることができました。地域の活動で活躍されていたこと、息子さんとも今は疎遠となってしまうことなど。自宅に戻られてからの生活について見守りなど支援体制を整えていましたが、知り合ってからわずか3か月後、Aさんは病院で亡くなりました。

Aさんと出会ってあらためて人は、最期まで自分が生きてきた姿が問われると痛感しました。家族とも疎遠で、長年の一人暮らしでしたが、気にかけてくださる仲間もおられ、Aさんがつくってこられたつながりから私たちが結びつくことができました。絆ネットでは、人と人との結びつきを少しでも広く、そして深くできればと思っています。

(久御山町社協 K・S)

絆ネットとは、地域におけるゆるやかな見守りと生活支援の取組みです。本連載は、京都市内の絆ネットの活動をつづります。実際に関わった事例をもとにプライバシーを配慮し一部修正して掲載しています。

自己決定に 寄り添い続けることを大切に

活動の推進、福祉サービス利用援助事業などの担当をしています。小地域福祉活動は、住みやすい地域を目指して活動されているボランティア団体の支援をしています。福祉サービス利用援助事業は、判断能力に不安がある方に対して日常のお金の管理や書類の手続き等の支援をしています。

福祉サービス利用援助事業は、本人の自己決定を尊重します。初めは、「その本人の自己決定が、本当に良い結果につながるのか?」ということと、自分の価値観を当てはめて考えてしまいがちです。自分の支援に自信がもてないことがありました。その決定がどのような結果になっても、それらも全て「過程」であるという考えを学び、不安がなくなりました。そのことから、本人の自



己決定に寄り添い続けることを大切ににし、支援に臨んでいます。社会福祉協議会の仕事は、このような個別の支援だけでなく、ボランティアグループや当事者団体の支援と内容は幅広いです。間接的な支援で、すぐに結果が見えづらい事業もあります。しかし、どの事業も「誰もが安心して暮らせることができる地域」をめざして取り組んでいます。今後ともお住まいの社会福祉協議会のご支援をよろしく願います。

すぐに結果が見えなくても 誰もが安心して暮らせる地域をめざす

土橋 剣和さん

●どばしけん
施設名: 社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会(コラボネット宇治)
事業所住所: 〒611-0021 宇治市宇治琵琶45 宇治市総合福祉会館内
HP/URL: <http://www.uji-shakyo.net/>
TEL.0774-22-5650 FAX.0774-22-5654
職種: 主事
経験年数: 4年目
▶好きな言葉: 七転八起
▶夢中になっている事: 姪の成長



トピックス

赤い羽根共同募金 × ヒーローショー

昨年の赤い羽根共同募金では、京都の各地で魅力的な募金活動が展開されました。四条河原町での街頭募金活動では、京都の各大学の学生たち数十名がボランティアとして参加。なかでも、目を引いたのは、同志社大学ヒーローショー同好会の「同志社戦隊タナレンジャー」(写真)



真)です。色鮮やかなコスチュームでさっそうと登場。突然、交差点に姿を現した「レンジャー」に親子連れや若者など多くの人々が足を止め、募金活動のPRに一役買いました。初めて募金活動に参加した学生のみなさんは、「共同募金が身近に感じられた」、「活動側の気持ちが分かり、今後の募金活動にもさらに興味をもつことができそう」と有意義な活動になったとの声もありました。

共同募金運動は、今年70年を迎える歴史ある活動ですが、さまざまな人と人がつながり、「自分の町をよくする仕組み」を考える新しいカタチの運動がさらに広がることを期待します。



寄付 ご寄付
ありがとうございました。

平成27年11月27日(金)に公益財団法人京遊連社会福祉基金様より500,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

ありがとうございました。

寄付 ご寄付
ありがとうございました。

平成27年11月30日(月)に自由同和会京都府本部様より100,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

ありがとうございました。

寄付 ご寄贈
ありがとうございました。

平成27年12月2日に関西遊技機商業協同組合理様より車イス7台をご寄贈いただきました。

車イスは、京都市を含む京都府内の各社会福祉協議会の活動に活用させていただきます。

ありがとうございました。



左から、副理事長 荒谷博文様
宮本隆司 常務理事

案内 「京都府災害ボランティアセンター10周年記念トークセッション」を開催します

テーマは『私と災害ボランティア～非日常から日常へ・私が伝えたい災害ボランティアの先で出会ったもの～』です。

- 日時 平成28年1月23日(土)
13:00～16:00

- 会場 京都府京都文化博物館別館ホール
- 対象 災害ボランティア活動に関心がある方
- 定員 200名
- 問い合わせ先
京都府災害ボランティアセンター
TEL.075-254-8815
- ★「私と災害ボランティア」まつわるエピソードを募集しています。
公式ホームページ
<http://fu-saigai-v.jp/>

案内 面接会のご案内

- ①保育園就職面接会
 - 日時 1月26日(火) 13:00～16:00
 - 場所 ハートピア京都3階大会議室
出展法人 20法人(予定)
 - 対象 保育士資格取得見込み、もしくは保育士資格取得者
- ②きょうと福祉職場面接会
 - 日時 1月28日(木) 14:00～19:00
 - 場所 ハートピア京都3階大会議室
 - 出展法人 22法人予定
 - 対象 高齢、障害施設等で就労を希望する方(無資格・未経験求人有り)

案内 京都介護・福祉サービス第三者評価事業「10周年記念シンポジウム」を開催します

第三者評価等支援機構では、10周年を記念して「一緒に考えよう介護・福祉サービスの見方、あり方、選び方」をテーマにシンポジウムを開催します。

- 日時 平成28年1月30日(土)
13:00～16:15
- 会場 京都平安ホテル2F 東山の間
- 対象 第三者評価に関心のある府民・学生の方、第三者評価事業の受診対象事業所の方、第三者評価機関・評価調査者の方など
- 定員 先着150名程度
- 申込フォーム <http://kyoto-hyoka.jp/>

案内 「福祉サービス苦情解決事業相談研修会」を開催します!

- 日時 平成28年2月18日(木)
13:00～16:30
- 会場 京都府立総合福祉会館
(ハートピア京都) 3F
- 対象 福祉サービス提供事業所の苦情解決責任者、受付担当者、第三者委員等
- 内容
 - ①「苦情を受けた時の初期対応」
講師：運営適正化委員会苦情解決協議体委員
(大谷大学教授) 安田 誠人氏
 - ②シンポジウム「苦情解決の取組み事例から苦情対応について学ぶ」
高齢者施設、障害者施設からの事例に学ぶ
コーディネーター：運営適正化委員会苦情解決協議体委員
(精神科医) 有賀 やよい氏
- 問合せ先 京都府福祉サービス運営適正化委員会 TEL.075-252-2152

**案内 施設の新築や増改築を考慮おられる社会福祉法人の皆さまへ
府社協では低利による融資を行っています**

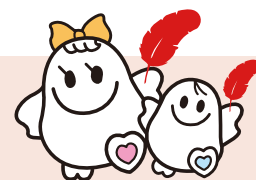
本会では、京都市内(京都市を除く)の社会福祉法人に対し、「施設整備等融資金貸付事業」を行っています。貸付対象事業には次のようなものがあります。

- 社会福祉施設の新設や増築費用
 - 社会福祉施設の修繕や改築費用
 - 固定設備や屋外設備、器具等備品の整備費用
 - 施設の新設等を行うための土地取得費用
 - (独)福祉医療機構の貸付金や地方公共団体の補助金が交付されるまでのつなぎ資金
- 詳しくは、本会ホームページ(市町村社協・福祉事業者の方へ)をご覧ください。TEL. 075-252-6291

- 「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)
- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。